

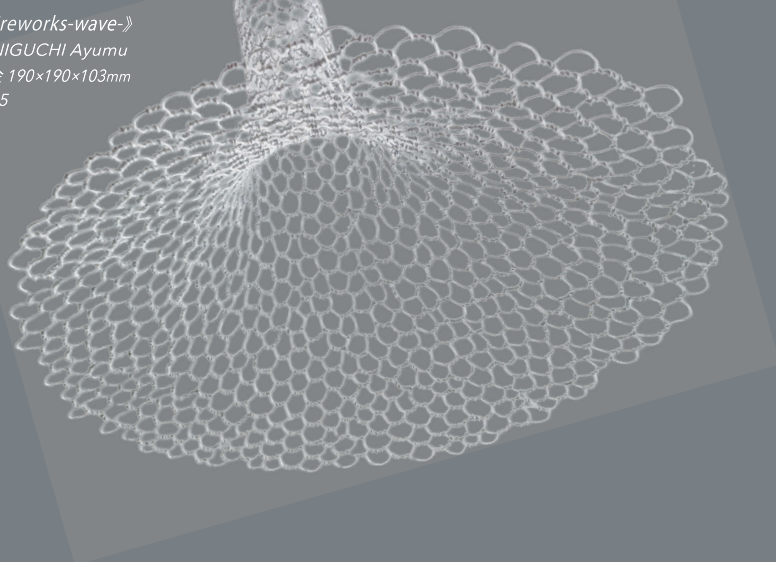
カーブのある交差点

Curved Intersection

UKIGAWA Hidenobu

TANIGUCHI Ayumu

第三船場・浜口坂



TANIGUCHI Ayumu

浮川さんが空気をつかまえたり、棚に空気をおさめたりすると聞いて、作品が不思議な装置に見える。私は？ 作品において空気をどう扱ってるのかと考えてみた。すると、私は編むという行為の始点である「わ」（作り目）を口のようなものとして結び、捉えている感じがする。空気に向かって口をひらく。外と内の間、そこから編むことで手をのびし網をひろげ、拡張する感覚から世界を知ろうとする。作品は私の器官のようなものかもしれないと思う。今日のところは。

多摩美術大学大学院修了。東京を拠点に活動。

近年の主な活動に、2026年「アートフェア東京20」、2025年「ART OSAKA」（共にギャラリー石榴）、個展「-Day by day-」（AURORA GRAN GALLERY）、グループ展Charity&Auction「安全な一日」（+1art）、2024年「SICF25」など。針金や糸等を用いた主に立体表現を制作、発表をしている。

カーブのある交差点

Curved Intersection

浮川秀信・谷口歩

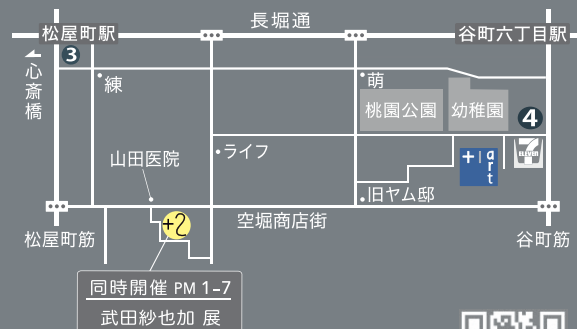
5月13日（水）—23日（土）

PM12—7（最終日〜PM5）
休廊 日・月・火

UKIGAWA Hidenobu

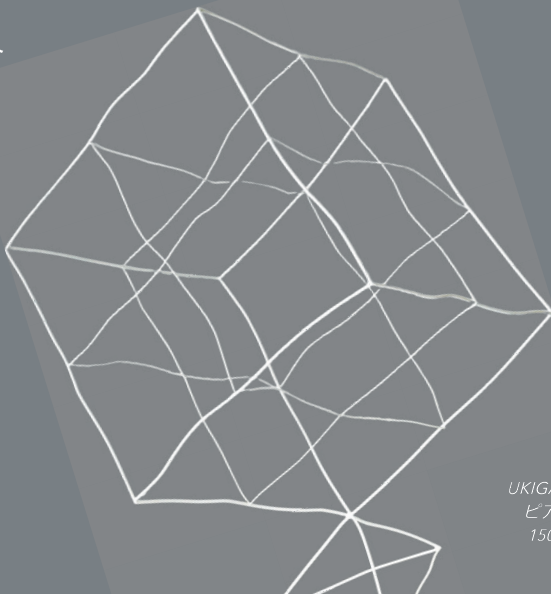
一目一目編まれた作品に驚いた「彫刻は空間を纏う」と言うが、想いを込めて「空間を編み込んで行く」その様に見えるからである、針金（ピアノ線）を簡単に組んで空気の入るフレームで箱様のモノを作っていた私にはこんな手もあったのかと驚いたのである、線を組めば箱と認識してしまう、そして見えない面が意識され中と外違う空間ができる、様に見える、そこで取りあえず空気を入れる棚を作ってみる、しかしこの辺りで進展なし、そこで見たのが谷口さんの作品、そうか空気を編み込むという手もあったのか、取りあえず空気を震わしてみよう、惑わせてみよう。

1968年 大阪学芸大学（現大阪教育大学）絵画専攻科修了。大阪を拠点に活動。1969年の初個展（あの画廊）以降、ほぼ毎年個展開催（信濃橋画廊 他）、アートナウ 77（1976）、日本国際美術展（1978,'79,'81）など、70年代から彫刻作品の発表を続け現在に至る。近年の展覧会に猫亀屋（2025 大阪）、ギャラリー勇齋（2025 奈良）、+1art（2024 大阪）、またアートフェアにART OSAKA2025（2022 大阪市中央公会堂）などがある。



+1art

谷町六丁目駅④徒歩1分
出口右手の石段を下り小路を左に
大阪市中央区谷町6-4-40 TEL 06-7712-6685



《untitled》
UKIGAWA Hidenobu
ピアノ線 銀ロウ付
1500×1500×100mm
2026